

板井根石公園トイレ設置事業

Q 約610万円の費用をかけて設置したトイレの様子は。

A この公園は河川区域内にあり、浄化槽付トイレは設置できないため、水洗式ではあるが、流した水等を地下のタンクに貯め、汲み取りを行う方式のトイレを男女1基ずつ設置した。



水道事業建設改良費

Q 平成30年度は約3386メートルの配水管整備を行ったが、そのうち新たに布設した地域は。

A 布設工事を行ったのは、箱石地区にある芝根小学校の重要給水管路としての耐震管と、役場周辺の耐震管整備の2カ所である。それ以外は全て布設替え工事であった。

無効水量

Q 漏水や消火栓利用など、料金収入にならない水量はどの程度あったか。

健康世帯表彰事業

Q 記念品代として53万円を支出しているが、事業内容は。

A 国民健康保険に加入されている世帯で前年度一度も保険証の使用がなく、健康で過ごした世帯に対して、町内産のこしひかり10キログラムを贈る事業である。昨年度は170世帯が対象であったが、道の駅でお米を受け取ったのは140世帯であった。

スズメバチの巣駆除事業

Q 事業内容と実績は。

A 住宅地周辺にできたスズメバチの巣について、町が業者に委託し駆除する事業である。基本的に住民の負担はないが、巣が特殊な場所にある場合などは別途費用がかかることがある。また、スズメバチ以外の巣は対象外となる。昨年度は54件の申請があり、委託料は52万円であった。



A 昨年度の無効水量は約64万立方メートルであった。漏水対策等を実施して、これらを減らしていきたい。

コンビニ収納手数料

Q コンビニ収納の割合は。また手数料額は口座振替と比べてどうか。

A 昨年度、町民税・固定資産税・軽自動車税のコンビニ納付の割合は、合計で37.8%であった。1件当たりの手数料は、口座振替が10円消費税別、コンビニ納付が57円(消費税別)となっている。

予防接種事業

Q 予防接種事業には毎年度1億円近い費用がかかっている。どのような事業なのか。

A B型肝炎や四種混合、ヒブやBCGなど子供を対象とした接種事業が全体の66%。また、インフルエンザや肺炎球菌の高齢者を対象とした接種事業が30%ほどである。残りは風しんやロタウイルスなどの任意接種事業となっている。

介護保険

Q 介護保険の被保険者数とサービス利用者数はどうか。

A 平成31年3月31日現在、被保険者数は8761人、サービス利用者数は、おおむね1300人であった。

LED防犯灯管理事業

Q 当初予算に比べ決算では150万円ほど事業費が増加しているが理由は。

A 防犯灯の木製支柱が風雨により一部倒壊したため、全ての木製支柱を鋼管支柱に変更する緊急工事を行ったことが、増加の主な理由である。

高齢者運転免許証自主返納支援事業

Q 事業の実績は。

A 運転に不安を持つ高齢者等が運転免許証を自主返納し、自費で運転経歴証明書を取得した場合、その交付手数料を全額補助する制度であり、昨年度は71名に補助した。65歳以上で免許を自主返納した方であればタクシー利用券の補助が受けられるなどの利点もあるため、返納者に周知している。

小中学校教育・校務用コンピュータ整備事業

Q 昨年度は約6644万円を支出している。効果や活用状況は。

A プログラミング教育も始まるため、子供たちがパソコンに触れる機会をより増やしている。また、タブレットや電子黒板等を使うことで、分かりやすく問題を提示することができ、子供の意見や考えを共有しやすくする等の効果がある。さらに校内は無線LANの環境が整っているため、

地域包括支援センター委託事業

Q 委託している2事業所に合計で3500万円を支出しているが、その実績は。

A 昨年度の実績としては、2カ所合計で相談件数が1370件、介護予防プラン及びケアマネジメントの作成件数がそれぞれ、1397件、1148件であった。また居場所や認知症カフェなどへの訪問回数は295回であった。

地域子育て支援センター費

Q 平成30年度は240件の相談があったが、どういった相談が多いのか。

A 子育てについての悩み相談が最も多く、次いで今後預ける保育所についての相談などとなっている。その他保護者の心の相談も増えており、不安な心を少しでも緩和できるようにじっくり話を聞くよう努めている。

児童虐待防止対策事業

Q 児童福祉司相当の資格を持つ職員の配置等はどうなっているのか。

A 資格を持つ臨時職員を相談員として配置しているほか、現在育休中の職員もこの資格を有している。また、子育て支援センター長及び、4月から新たに担当となった保健師も今年度中に資格を取得する予定である。

図書館資料整備事業

Q 除籍した図書が5418冊に対して新規購入図書が6172冊とほぼ同じ冊数となっているが、蔵書はこれ以上増えないというのか。

A 限られたスペースという制約があるため、何年も貸し出しのないものや他の図書館から相互貸借できるものについては除籍を進めている。今年度、利用の少ないVHSのビデオテープの大半を閉架書庫に入れ、空いたスペースに本を置くことで開架書庫の充実を図っているところである。

親子芸術鑑賞事業

Q 町外からも参加があるほどで評価の高い事業であるが、この事業の今後の展望は。

A 子ども読書活動推進計画に基づいて実施している事業であるが、この計画が今年度終了するので、中身を見直した中で継続するかどうかを考えたい。



どの教室でもタブレットを使用し、調べ学習ができる。